

●九重の御消息

●御命名式 第二皇孫殿下御命名式は、皇室誕生令第八條に依り、先月一日午前十時目出度終らせらる。

御名 雍仁
御稱號 淳宮

宮相よりは御命名の告示を即日官報號外にて發せられたり。

●勳章御贈進 天皇陛下は先月三日午前十三時十分御出門、芝離宮へ行幸あらせられ、樓上一の

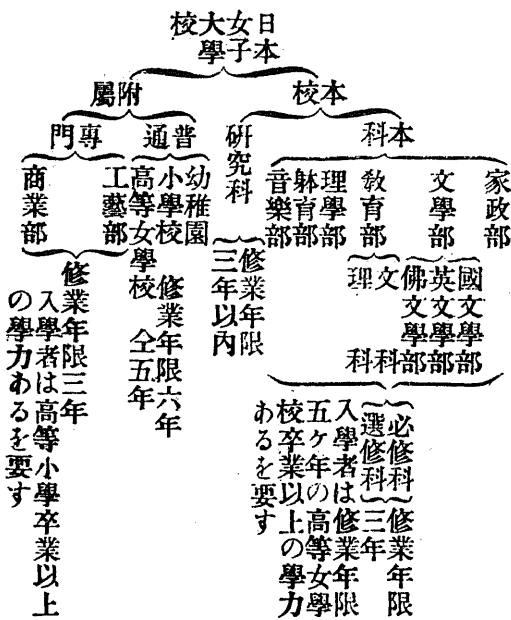
間に於て露國大公殿下に御對顔、親しく大勳位菊花大綬章を御贈進の上、種々の御物語ありて、一時三十分還幸あらせられたる由。

●學びの窓

●女子高等師範學校 去る四日午後六時より、同校講堂に於て市村讚次郎氏の北京につきての講演會を開きし由
▲十一日より本校附屬校園とも暑中休暇となりしが本校生徒の歸省せざる人たち凡そ四十人許りは寄宿舎に残りて静養しつつありと
▲東京府高等女學校補修科卒業武井綱技子は今回全校保育囑托を拜命せりと。
●東京府第一高等女學校 全校は去月十九日第六回紀念祝賀式を舉行せり(東京だより参照)全校は去る明治廿一年十二月京橋築地に校舎を借りて創始せし以來本年に至るまで殆んど十五年、而

して第一回紀念會は實に卅年七月十九日なりきといふ。

●女子大學 愈降盛の域に向へる同校は今回同校一覽を刊行したり。之によりて見るに、同校今後の計畫は實に左の如くなりといふ。



●四谷英語學校 四谷區船町二番地なる同校は

今回女子部を新設したる由にて、尙篤志なる苦學女生のために無報酬にて教授の便を與へらるべしといふ。程度は高等女學校及同校入學受験の二級なりといふ。

●東京女學校 神田西小川町なる同校は、校長竹澤里氏の熱心なる盡力を以て、漸く其規模を大にすべしといふ。

●東京音樂學校 同校は先月五日卒業式を舉行したり、文部大臣以下多くの貴顯紳士臨場せられ午後三時より卒業式を開始し、校長の訓示文部大臣の祝辭等あり、終りて職員及生徒の演奏會ありたり。今回の卒業生は二名なりし由

●女子美術學校 本郷區弓町なる女子美術學校にては先々月廿八廿九の兩日校友會製作品展覽

六十三

會を開きたり。兩日とも雨天なりしに拘らず、來觀者非常に多く生徒の製作品には頗る見るべきもの多かりし由。

●ヒュース女史

は愈來月を以て歸國の途に附

かるべしといふ、去る五日の全女史送別會は、非常の盛會にて、女史は熱心に我邦現下の英語教授法の當を失せるを指摘し、英語教授法研究會の速に開設せられんことを勸告せられたり。一年間同女史の滞在の實に我國教育上少からぬ影響を與へられたるは吾人の深く女史に謝する所なり。

●吳如綸氏

先月來頻りに府下の各學校を參觀

して我國の教育の盛況に感歎せられつゝある同碩儒は殊に本邦女子教育の旺盛なるに一驚を吃せられしといふ。途上多くの學生の相來往せるを見て日本は學生許で充ちて居る様なりといはれしとが

兔に角同氏今回の來遊は、彼國、文運扶植の上に偉大なる影響を及ぼすべきは疑ふべからず。

東京だより (七月廿二日)

霽 水 生

▲いや降り續き候、降り續き候。六月十日より始めて先月上旬、はや梅雨は相濟み候に、引き續いて二十日過ぐるまで、毎日〱降りみ降らずみ、かきくらしでのみ打過ごし候には頼と閉口致し候北陸の邊は之が爲め、少からぬ出水の災害之あり候由、別段の御被害もなく相濟み候や、伺ひ奉り候。

▲併しなごら、雨の東京は去つて茲に炎熱の都會は相顯れ申すべく候。雨中の泥土は忽ちにして熱帶の砂漠と變じ、蒸すが如き熱風は、颯然として

炎くが如き紅塵を飛ばすこと正に萬丈、全市時に
 晦暝の巷と相なり可申、こゝに至つては、清秀の
 山、清冽の水、田舎の樂土轉、羨望に堪えず候。

▲本月十日も目前に迫りて、社會の或一部の人々
 は先月、先々月來何れも血眼になりて狂奔致し居
 り候由、どゝか眞に國を思ひ、眞に國家の事業に
 盡力致すべき人々の揃つて當撰せられん事を望
 み候。

▲前々便にて候ひしか、近來の出版界のことを申
 し上げ候ひしが、クドイ様には候へ共又々御報導
 可致候。

▲印刷の便利なるにつけ、出版物殊に少年少女雜
 誌の發刊の盛なること驚くべく候。一方に於ては
 喜ぶべき現象には候へども、熱々視察致し候時は
 頗る歎はしき影響を與へ申候。即多數の雜誌界の

間に立ちて已を維持せんがため、種々なる營業方
 法を講ずることに御座候。由來婦人殊に少女は些
 少の毀譽褒貶にも著るしく、心氣を動かすものに
 候。併も之を利用して、左までもなら、女學生を御
 大層に矢鱈に紙上に吹聴し、其寫眞を挿み、其文
 を載せ、百方之を持ち上げ煽動し、其虛榮心、其
 浮誇心を熾盛ならしめ、以て其販路を擴めんとなす
 るが如きは、子女教育に取つて著大なる惡結果を
 與ふることは、敢て贅辨を要するまでもなきこと
 に候。或小説雜誌は醜業婦の寫眞を挿入し彼等の
 機嫌を取つて以て、其販路を廣め居り候事は御承
 知の如く候、併も苟くも教育的といふ雜誌に於て
 敢て此法を取るが如きは劣の最も劣なるものと存
 じ候。

▲妙齡なる女學生に非らず候ても、例令ば當世毀

上は定まらず、眞價尙未だ認められざる人を無暗に譽めちぎるが如き、亦同じく大害を流すものに候。勿論或人に對する褒貶は、各人の所見によりて異なれば甲の貶する處、乙之を褒す、無論是非なし、所謂棺を覆うて後定るものに候へども苟くも少年薰陶の任を目的とせる出版物に在りては、よく〜熟慮、慎考明瞭なる判定を以て物したく候。

▲何れ近來は雑誌の世の中に候。中には思ひ切つて大きく種々多方面に亘り併も非常な廉價を以て販賣致すものも有之候。併も多種多様なものだけに随分玉石同架、味噌と何やらとのゴツチャになつた恐も有之候。たゞ面白がらせの爲めに、益にもなき寧ろ有害な材料で紙面を塞ぐよりは、單純でも有益で興味ある材料を精撰致したく候。

六十六
▲去月十九日府第一高等女學校記念會は、もはや彼の校舍に於ける最終の會として眞に立錫の地なきまでの盛會にて寧ろ會場に溢れ申候。生徒の朗讀英語の會話など中々よく出來候。終りの卒業生職員員の演奏は當日の花にて候ひき。此の如き會に卒業生が出て、興を添へるなどは、訓育上最もよき事と存じ候。

▲世には可笑しき事を問答する人も有之候。即ち女子に教育を施すことよいか、悪いかかの題につき問答することに候。教育といふ意義より考へ候ても、女子に教育して不可といふ理由は何處に有之候哉。但し悪い教育、似而非教育は無論此限にわらず候。或は又、單に女子に學問させる、又は生學者にさせる教育も亦此限にわらず候。兎角女子とイヤは失禮、小人とは養ひ難いといふ

所より、女子を教育する學校が、誤つて女子を生學者に致し候事も有之候はい、可笑しき、不合理の様な非難も當然起り申すべく候。

▲嘉納東京高等師範學校長は愈先月廿一日清國に押し渡り候由。活動の舞臺は何處にても廣がり居り候。下田歌子女史も渡航すべしとの評判も聞き候。

▲夏休みにて、當地目下頓に寂寥を感じ候。何かと小言の様な事許り并べ立て、相すみ申さず、御海容願候。悪疫流行の時節柄、折角御自珍祈り候。早々。

地方通信

長野縣の女子

長野 飯島八千溪

△女子の就學 市街地の小學校は、一般男子の就學に劣らない、のみならず、此の二三年わ、女生徒教が男生徒數に超過して居る。村落部に於ても、近年大に、女子教育の必要を感じて、其の就學分合が、著しく進んで、百中、九五以上の成績を現はして來たのが甚た少くない、殊に、慶すべきは、只に尋常科に満足せず高等科を併置して、然もその女子就學者が男生徒數と比肩せんとするまである。

△高等女學校 は、長野、松本、上田、飯田の四校あるが、四校共、一年一校舎の狹隘を告げ、志望者に満足を與へ兼ねる傾も、或は、ないとも云へぬ、此の他各所に、此の種の學校を起さんと劃策して居る向もある。

△女生徒の運動 縣下一般女生徒は、屋外運動

が盛である、是には、種々の原因がある、歴史上、我が日本國民は、昔より今日に至る迄、其の體格倭小になり、現在猶ほ成りつゝある、之では、如何にも日本の將來が不安心だ、芋も女種の太つたのを選んで、何でも彼でも、母の體格を強壯にせねばならんと云ふ説が、天下に瀰漫して來た、之は誠に結構な説であつたから、直に我が長野縣中に擴がつて、ヤー彼方の學校でもブランコ、此方でもブランコ、ヤン遊動圓本だの、ヤレ、ロンテナスだ、何々競争だのと、休憩時間と云へば、學校の庭では、ワイワイと鯨波の聲だ、現に、長野高等女學校には、ロンテナスのコートが十八ヶ所設けてある、他は、推して知るべきである、之に次ぎて起るは、

△女生徒の服裝

だ、之は渡邊長野小學校長、

數年よりして、大に袴の必要を唱せられ、日本女子の體格勝れざるは、腰部を纏綿する事、十四五匝なると、裾の開く爲めに、十分なる下部の運動が出來ざるとが、非常なる影響を與へて居ると云ふを、時の新聞に雜誌に、公私の席上に、熱心吹聴せらるゝと同時に自己の所理せる小學へは實施した、サー袴を用いると、今までのよゝに、前を押へて飛ばずもよいからドーモ活潑に成て來た、斯る工合であつたから、バツト縣下に廣がつて、今では、如何なる山間僻邑でも小學校の女生徒と云へば皆、袴を着て居る様に成た、

△女生徒の筒袖 袴を用いて、運動は餘程敏捷になつたが、何致せ、二尺八寸もある、振袖をビラ／＼舞はしてやるのでは、逆も十分なる遊戯も運動も出來はしない、ソコで生徒自身が筒袖の便

利なるを唱へ出したのを、好機逸すべからずと、

大に之を賛し獎勵したので、本年の五月廿一日

畏くも 東宮殿下當縣下へ行啓の砌には、縣下全

体筒袖に成たると思ふ、

△生生徒の帽子 之も屋外運動の盛なる結果、

自然の要求として、戴帽の許を、生徒或は父兄が

願ひ出した、長野市内各種學校寄々其の戴帽必要

説の盛ならんとする矢前であつたから、夫れく

交渉して、市内學校戴帽に決定し、今日では、尋

常小學より高等女學生に至るまで、皆、戴帽、筒

袖、袴と云ふ扮装だが、一向に、見悪くない。縣

下、他地方にても、今日頃わ、戴帽しつゝあると

思ふ。

△裁縫講習會 信濃教育會の事業として、縣下

各地に開き、既に尋常部の事業は一般に終り、今

は、高等部の講習第二回を済し、次第に第三第四

と各所に開設の筈である、斯して、成績を考查し

て、相當の資格を與へるに成て居るので、大に

良裁縫教師を得るに好都合である。(普通學科及び教

理訓練等)其の他、郡立、私立のもの多々ある。

△婦人會 之は、少し流行の傾きも有るか知ら

んが、町以上の所は勿論、村落、殊に、山間にて、

百戸内外の部落にまでも往々設けられてある、豈

に、盛と云はざるを得ないでないか、其の事業と

しては、折り／＼知名の人を聘して其の説を聞き

或は、會員相互に、研嗟して、各自の進歩を計り

一方には慈善事業を引提げて活動して居るが、女

子には、最も、善い事業と思ふ。

北海道通信

通信子

● 歸省 笈を負ふて遠く他郷の月に嘯くもの、今や歸省の期も近きにあれば、雙親故舊の友の門に倚りて待つや久し。

● 講習 北海十一洲其廣袤亦狹きにわらず、近くに於て開設せらるへき講習の草々は、札幌に、小樽に、函館に、古平に、江差に、根室に、釧路なりと。

● 女學生の服裝 札幌高等女學校にては服裝の華美に流るゝの弊を防かんがため、教師率先して一斑に筒袖を用ゆることに内規せりと云ふ。

● 七月の北海天地 梅雨漸くはれて綠陰の下に蟬聲喧しく、室内温度八十度にして、實に三伏の炎暑は東都に譲らざるべし。

海外彙報

◎朝鮮及清國通信

故 瀨川 友子

(前略)朝鮮は御承知の通り全く各港とも日本化して少しも外國の様なる心地仕らず、殊に山水ともに清らかにして釜山仁川の如きは水道もあり、電話もあり電燈もあり、涼車もあり、たい人力車なごのみが御地など、異なる心地致し候。學校もかゝる人口にて、内地にて容易に見得べくもわらぬ建物出來致し居るなど、少しも他の境土とは思はれ申さず候へども、一韋水を隔て、芝罘にせよ、全く風土變り、塘后に上りし時の如きは、何もかも泥くさく、踐む土さへ誠に不潔にして、不潔なる支那人の相往來する様、實に淺間しくとも何と

も申しかたなく存じ候。たい本船より小蒸涼に乗り代へ十四五湮をすゝみ塘垢砲臺を咏めに参り候時は、實に愉快に感じ申候。砲臺には先づ日本軍の占領を占し、國旗ゆたかにひるがへる、之には参り合はせし日本人一同快哉を呼び申し候續いて各國の旗それ〜風になびき、さしも堅固の砲臺はいかに多くの人力と金力とを費やして成立せしものならんに、情なくも當時支那人をして壞さしめ居り申候。塘垢に上陸して茲に一泊し、翌朝七時の瀛車にて出發、際涯なき原野を眺め、或は六種の電柱(各國の所有線)にそゝる其國の狀を見て過ぎし日清の役、或は一昨年(の)の事など思ひ返してある間に天津に到着致し候。此瀛車は一旦日本軍の守りし處なりしも、今は英國の下に在りて札改め等は英國の軍人の致す處にて候。上等と申して

も、日本の、下等の如く下等は支那人のみにて候へども、日本の石炭などつめる列車の如くにて、到つて粗末にて候。天津は專管居留地の方のみ見物致し候へども、實に見事にして、建築の宏壯なる、設備の整へる、且つ交通には人力あり馬車あり、實に結構に候。只だ私の不快に感じたるは、樹木あれども葉は皆泥色を呈し、灰の如き泥土は一面に舞ひ上りて、天も亦泥色をなし、水も亦泥土にて混濁せるなど、實に日本の如き國に住みなれしもの、始は不快に感ぜずには、相すまぬ處にて候、氣候も朝より蒸し暑く、まだ六月の始なるに、早くも九十度の上に出で候、内地にて御住はせらるゝ方々は、實に御仕合はせと存じ候。當地(牛莊)も水には相變らず不自由にて、昨今の如く雨ふらぬ間は、飲料水も盡きはせずと心配致

し候、始は何もく泥臭く御飯も色附き候上に、多少鹽氣有之候故、いかにしても食欲御座なく、誠に困り候ひしが、昨今は大分なれて食欲も出で申候、しかも氣候は天津などは異なり、いかに暑さ内もまだ九十度以上に昇るやうの事は御座なく候殊に暑さは二週間許の間に、餘は誠に凌ぎ易さ由に候、冬は反對にて候由、當地は御案内の如く一旦日本の占處なりしに今は露西亞民政廳の命に從ひ居り候(中略)日英米間は誠に親密にて候(中略)當地の或方は、將來日本人獨占の商業地たるに至らんと申され候が他港よりは餘程活潑の様に候。(下略)

六月廿三日 牛莊より。

尙別記釜山幼稚園記事御覽に入れ候

▲韓國釜山大谷派本願寺別院内私立幼稚園記事

本園は明治三十年京都揚梅幼稚園大坂府高等師範學校附屬幼稚園の規則を參考として設備し、保母二人を以て保育に當らしめ園児僅かに二十名に過ぎず、當港は一道三府四十縣七十七ヶ國の居留民にして圓滿なる樂さ家庭に長養せらるゝもの殆んど稀也。保母を得る事亦容易ならず、自來數名の保母交代ありたれども種々苦心の結果、日に月に保育の必要をも感じ、現今の園児八十名に達し、園主井上香憲、保母桐幡貞子、成田芳子、助手津之江延其路に當り、日々出園兒七十名計にして、保育時限表等は別紙の通りに御座候右御參考迄申上候也。

新刊紹介

▲女性征伐 全一冊 女 鶴 子著

健全なる女子教育上の意見、併も其題目其表紙、其体裁、如何に

も今様のハイカラ的文学を氣取りたるは、何の意味なるかを知らず、情しむべき心地す(定價金二十錢。本郷森川町一、育成會發行)

▲斷腸花

全一冊

堀内新泉著

著者は教育小説を以て自ら任ずとの評あり。輕薄なるハイカラ文学旺盛の世に、本書の如き小説を見る。吾人の著者に多きする所なり。納むる所短篇十、每篇涙を以て讀み終る。健全なる教育小説といふべし(定價二十五錢。芝金杉川口町五、文潮社發行)

會 報

入 會

- 香川縣師範學校女子部
- 神奈川縣須賀町橫須賀小學校
- 京都市烏丸戎川
- 牛込區東五軒町三五
- 東京麻布區我善坊町四九
- 東京麹町區有樂町三ノ一
- 鳥取縣鳥取市高等女學校
- 牛込區山伏町二〇
- 京都市東三本樹南町八番戶
- 石見國美濃郡東仙道村大字三谷
- 東京京橋區南佐柄木町二
- 東京小石川區眞差町二六

- 新居い
- 野秋き
- 櫻並壽
- 新井博
- 塚本る
- 八田さ
- 小田し
- 川島庄一
- 高安吾
- 佐々木さ
- 北村きた
- 吉澤幸

一金五	自三十五年	十月
一金六	自三十五年	四月
一金七	自三十五年	九月
一金五	自三十五年	七月
一金五	自三十五年	六月
一金七	自三十五年	六月
一金五	自三十五年	六月
一金七	自三十五年	六月
一金三	自三十五年	八月
一金五	自三十五年	六月
一金四	自三十五年	九月

會費領收

自明治三十五年六月二十六日 至全 七月二十三日

- 下田 鶴
- 高山ふ
- 尾崎万
- 岡澤や
- 外山茂
- 土井た
- 服部作
- 村川愛
- 柴田か

轉 居

- 東京本郷區元町一ノ四 武井綱枝
- 東京下谷區中根岸八一 黒澤省吾
- 東京淺草區西三筋町九番地へ 大山千代
- 神田區小川町四十一番地 竹内忠治方 喜地すが
- 牛込區原町三丁目六十七番地へ 大橋みな
- 大坂市東區博勞町二ノ一へ 町田孝
- 栃木縣宇都宮高等女學校へ 岩崎かの

婦人の子も第二卷第八號

一金一圓五十錢	一金一圓	一金八錢	一金五錢	一金一圓	一金六錢	一金六錢	一金二圓	一金五錢	一金一圓五十錢	一金五錢	一金一圓二十錢	一金二圓	一金一圓	一金六錢	一金四錢	一金四錢	一金四錢	一金四錢
自三十四年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十四年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年
四月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	四月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月

辻きく	尾田けい	岩下なほ	富岡むめ	佐原貞	宮武みよ	平野ま	坪内きく	小關清	笠井し	下村三四吉	川島みつ	岡都子	永田かい	新居い	阪元あき	平塚さ	小島ほ	重田ふ
自三十五年	自三十四年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十四年	自三十五年	自三十五年	自三十四年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年	自三十五年
六月	六月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月

松岡さち	大橋みなか	森田きく	堺さき	森乙女	長谷川はる	金子きた	町田孝	吉村はま	榎並壽賀	伊藤貞勝	山田せん	富田八千代	平野みよ	赤江よ	小林ふ	宮崎も	高木な	木村さ
------	-------	------	-----	-----	-------	------	-----	------	------	------	------	-------	------	-----	-----	-----	-----	-----

一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十
錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢
自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十
五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年
七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月

相川 峯	渡邊 すみ	内田 たね	岩田 ゆき	村井 あい	八田 さし	安東 てい	根来 まさえ	藤岡 さき	古市 しづ	赤穂 千春	土谷 ふで	春田 たか	永田 けい	松山 いつ	山口 保三	千崎 如幻	中川 よれ	渡邊 こう
------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

一金六十	一金七十	一金五十	一金五十	一金六十	一金一十	一金一十	一金一十	一金一十	一金六十	一金七十	一金六十	一金七十	一金六十	一金七十	一金六十	一金七十	一金六十	一金七十
錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢	錢
自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十	自三十
五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年
七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月	七月

東くめ	東基吉	塚本 あり	福田 米	高安 晋妻	田井 敏三郎	合志 章子	水主 こう	佐々木 さだ	早川 長	進藤 えい
-----	-----	-------	------	-------	--------	-------	-------	--------	------	-------

會員瀨川友子君には、先月一日清國牛莊に於て、虎刺拉病の襲ふ所となりて長逝せられたり。謹しみて弔意を表す